

文教民生委員会行政視察調査報告書

1. 調査月日 令和5年10月17日～10月20日
2. 調査先・項目
- 大阪府寝屋川市
・子どもいじめ防止対策について
- 大阪府吹田市
・いじめ防止の取組について
- 兵庫県淡路市
・検診受診率アップ大作戦について
- 岡山県岡山市（岡山市立山南学園）
・岡山市立山南学園整備事業について
3. 調査派遣委員
- | | |
|------|------|
| 永本浩子 | 村椿敏章 |
| 金兵智則 | 栗田政男 |
| 里見哲也 | 古田純也 |
| 古都宣裕 | |
4. 調査結果 別紙のとおり

令和5年度文教民生委員会視察報告書

網走市議会文教民生委員会
委員長 永本浩子

1. 「子どものいじめ防止対策」について

<視察日>令和5年10月18日（水）10:00～11:30

<視察先>大阪府寝屋川市

<視察内容>

寝屋川市は、「初期段階からいじめを見過ごさない、許さない」また「いじめは市民への重大な人権侵害である」という廣瀬市長の強い思いによって、令和元年10月から市長部局に「監察課」を設置し、学校や教育委員会とは別に「行政」による「いじめゼロ対策」をスタートした。

寝屋川市では、通常の学校や教育委員会によるいじめ対応を「教育的アプローチ」として、教育的指導による「人間関係の再構築」が目的であり、ほとんどのいじめ事案は解決するものの長時間を要し、児童と教職員の問題への対応が困難。一方、監察課による対応は「行政的アプローチ」として、いじめは「人権問題」である、と捉え、「いじめの即時停止」を目的に独自に収集した1次データに基づき、短期間で対応し解決に結び付ける。児童と教職員の問題にも対応でき、市長による是正勧告も出来る。

具体的には毎月1回、市立の全小中学校36校の児童生徒に「いじめ通報促進チラシ」を配布し、印刷してある手紙を切り取り、記載内容が見えないようにのり付けして投函すると直接、監察課に届く仕組み。届くと即日、連絡を取り、聞き取りをしていじめの早期発見、早期解決に結び付ける。更にいじめる側の子どもにも抑止効果になっていく。令和4年度の実績では、直接、監察課に寄せられた相談151件のうち、チラシによる相談が56件と最も多く、次いでメール・来庁が43件、フリーダイヤルが42件となっている。

また、寝屋川市では、いじめ対応の三権分立！として、「教育的アプローチ」「行政的アプローチ」の他に「法的アプローチ」として賠償請求などの民事訴訟や刑事告訴の支援や弁護士費用の補助制度もつくられている。

そして、「子どもたちをいじめから守るための条例」も制定し、その中には市長の権限として勧告内容も明示するなど、様々な角度からいじめの解決を図っている。

<感想>

いじめの問題に学校や教育委員会とは別に行政が第三者の立場で介入し、直接タッチするのはおそらく寝屋川市が初めてではないかと思う。元教員だったという村上議長も「最初は教員のプライドがあり抵抗があった」とおっしゃっていたが、私も「その通りだ」と思い、「どうやってそこを突破して実施することが出来たのか」その点をまず聞きたかった。一番には、やはり**市長の強い思い**！そして、教師の側からではなく、子どもや保護者の側から見ると**相談する選択肢が増える**ということは良いことなのだ、という考えが理解されたことだった。

また、**学校に相談しにくいことも相談できる**、過度に要望してくる保護者に対しても監察課から話してもらうことで収束に向かったなど、今では先生たちも助かっており、実際に効果も表れている。

更に、「**攻めの情報収集**」として令和元年にスタートしてから、ずっと毎月1回市立の全小中学校の児童・生徒全員に「いじめ通報促進チラシ」を配布し続けていることが素晴らしいと思った。そして、**手紙が届くと即動く！**という迅速さに、**市長部局の強い思いと本気度**が現れており、それが市民への浸透と信頼につながっているのだと思う。いじめ対応件数が令和2年度の169件から令和4年度には337件に増え、その全てが1か月以内に停止している、という結果にも表れていると思う。

ただ、網走市は寝屋川市と比べると人口も1/7と少なく、小中学校の数も子どもの数も少ないため、対応に当たる職員がいじめ問題の直接的、間接的な関係者である確率が高くなるのではないかと、という点が心配でもある。

しかしながら、あの悲惨ないじめ問題が起きた旭川市も、二度と同じことを繰り返さない、との深い反省から、昨年12月に寝屋川市で開催された「いじめ対策サミット」に出席し、本年6月、寝屋川市に学んで「いじめ防止条例」を施行した。

網走市も昨年から今年にかけて、いじめの重大事案が発生し、当事者はもとより、多くの方が心を痛めている。今後もそうした問題が起こることは十分に考えられる。大切な子どもたちの未来を考えると、いじめを「**人権問題**」にとらえることは非常に大切だと思う。いじめ問題が起きて、時が経てば子どもたちに笑顔が戻り、何事もなかったかのように外からは見えても、心に刻まれた傷は消えない。いじめを受けた子どもは虐待を受けた子どもよりも大人になってから不安やうつ、自傷を抱える確率が高く、自殺念慮・自殺企図の確立も高いことが長期に渡る研究で明らかになっている。こうしたことを考えると、重大事案になる前に、早期発見、早期解

決が何より大切である。

そのためにはどうしたらいいのか。学校や教育委員会の責任を問うだけでなく、市長部局も私たち市議会議員も真剣に考え、未来のための改善策を講じるべきだと考える。網走市でも寝屋川市の取り組みを参考に積極的な解決方法を検討していきたい。市に対してもしっかりと提案してまいりたい。

2. 「いじめ防止の取り組み」について

<視察日>令和5年10月18日(水) 14:00~15:30

<視察先>大阪府吹田市 吹田市立教育センター

<視察内容>

吹田市は、平成29年度にいじめ重大事態が発生し、学校や教育委員会の対応の遅れから、いじめ被害が拡大し、ニュース等でも大きく取り上げられた。これを受けて、学校・教育委員会・市長部局が一丸となって「二度と同じことは繰り返さない!」との強い決意の元、いじめの未然防止、予防に力を入れてきた。

具体的には「すいたGRE・EN(グリーン)スクールプロジェクト」を実施。

「GRE・EN」の「G」はgood(良い)、「RE」はrelation(関係)、「EN」はenjoyment(楽しみ・喜び)で、いじめの無い学校づくりを目標に、子どもたちが友達や先生、地域住民と良い関係を築き、楽しみや喜びを感じながら過ごせる環境を整えるためのプロジェクト。

1. いじめ予防推進事業

いじめが起こりにくい学校風土の醸成。「公益社団法人子どもの発達科学研究所」と連携して実施。

- ① 教職員研修(専門研修、各校リーダー研修、全教職員研修)
- ② 学校風土・いじめ調査
- ③ いじめ予防授業を全小中学校(小36校2万人、中18校1万人、教職員1,800人)で実施

1. 一人1台端末を活用し児童・生徒のヘルプサインを送信できるツール「マモレポ」の運用

1 教職員向けプログラム(生徒指導編・教育課程編)の活用

2. いじめ対応支援員(校長経験者など)の配置でいじめ防止のアドバイス

3. スターター(支援員)の配置・増員で小学1年生の支援・見守りと2年生にも配置

(令和元年度まで各小学校に1名→令和4年度は61名配置)

4. スクールソーシャルワーカー(SSW)の配置

福祉の視点を持ったSSWの活動時間を倍増し、「チーム学校」の一員として、初期対応の質の向上と取り組みの充実。いじめ防止会議のコーディネーター役

5. いじめ対応専任のスクールカウンセラーを配置

心理の専門家として子どもや保護者へのカウンセリング、学校の支援

を行う

6. スクールロイヤーとの連携強化

法的な観点でのアドバイスや教職員への研修、いじめ防止会議等への定期的な参画、重大事態への支援の充実

7. 第三者調査委員会の常設化及び取り組み状況の検証、意見提示

重大事態に迅速に対応し、早期解決を図るために常設化。第2小委員会も設置。

特に「いじめ予防推進事業」には力を入れており、TRIPLE-CHANGE（トリプルチェンジ）プログラムとして、いじめについて①正しい知識を得る②正しい行動をする③集団を変える、ためのワークブックを活用し、小中9年間、年間3時間のいじめ予防授業を行っている。この授業を通し、子どもたちに「いじめ」に対する「シンキングエラー」即ち、間違った考えに気付かせ、傍観者にならない、嫌なことは「イヤ」と言える子どもに育てることでいじめや重大事態の未然防止につなげている。

<感想>

本年5月、NHKで放映された「世界のいじめ対策」「いじめを科学で予防する」、吹田第六小学校の「いじめから逃げない3年2組4ヶ月の挑戦」には目が釘付けになった。しかも、吹田市の市立の全小中学校でいじめ予防授業に取り組んでいると知り、本当に感動した。是非、その取り組み内容を学びたい、との思いで今回の視察に望んだ。

午前中に視察した寝屋川市は、大きないじめ事案があった訳ではないが、だからこそ起きる前に早期解決の手法を確立しておきたい、との市長の強い思いから行政的アプローチがスタートしたが、対照的に、吹田市は、全国ニュースで報道されるほどのいじめの重大事態が起き、深い反省からスタートして、いじめ予防に取り組んできた。

中でも、注目したいのは、いじめ予防授業の取り組みだ。基本的には「公益社団法人子どもの発達科学研究所」と連携してワークブックも作成されており、和久田学所長から各校1名の教職員の「いじめ予防リーダー」が講義を受け、それを持ち帰って自校の全教職員に教えていく。リーダーは毎年変わり、今では、和久田先生ではなくても研修が出来るようになったという。

自分が伝えていくことで教職員自身の人材育成につながり、こうした研修を毎年行っていく中で、教師自身が自信をもっていじめへの対応が出来るようになる素晴らしい取り組みだと思う。吹田市には、1,800人の教職員がおり、その中の100人が毎年新任教師として赴任してくるそうで、網走とはスケールが違い過ぎるが、この研修の積み重ねは大きな力になって

いると実感した。

また、NHKの番組では、校長も加わり、先生たちが劇を作って子どもたちの前で上演し、一緒にいじめについて考える取り組みが紹介されていた。先生自身が子どもの頃にいじめの傍観者になったことへの後悔の思いを伝えたことで子どもたちの心にも勇気の心が湧いてきた、というシーンがあった。こうした取り組みの中で先生と子どもたちとの絆も深まっていくのではないかと思う。

そして、小学1年生から中学3年生まで9年間、いじめ予防授業を受けられる子どもたちは幸せだと思う。何がいじめなのか、いじめの現場に居合わせた時に声を出す勇気を持てるか、自分がいじめに遭った時、嫌なことは「イヤ」と言える自分になれるか、ということは子どもたちにとって非常に大切な人間教育であり、大人になってからも重要な人格形成の基礎になると痛感する。また、授業を通して先生との絆が深まることは、卒業して大人になってからもずっと残る「宝物」だと思う。

1回の講演だけで事足り、とするのではなく、教師も子どもたちも継続して学び、力をつけていく。この積み重ねが、吹田市の文化となっていくのではないだろうか。そして、この子たちが大人になり、親となった時に、いじめを許さない！いじめゼロが当たり前の時代を創れるのではないだろうか。

また、教育委員会の「いじめ検討部会」では、毎月1回、54校全ての小中学校から上がってくる「いじめ問題」の報告に目を通し、大阪府から出ている問題行動のチャートを使ってレベル1～5に分類し、いじめ対応の進捗状況など取りこぼしが無いように各校と連携をとって対応している、とのこと。その作業量の多さに驚き、そして感心した。

更に吹田市では、いじめ対応専任のスクールカウンセラーが配置されており、いじめ対応支援員、スターター、スクールソーシャルワーカー、スクールロイヤーまでいて、羨ましい限りだ。寝屋川市ではスクールソーシャルワーカーとスーパーバイザー合わせて4人で予算は400万円ということだったが、吹田市はスクールソーシャルワーカーに5,600万円、スターターに5,600万円、いじめ対応支援員に2,600万円と寝屋川市と比べても非常に高額な予算が付けられており、財政状況の豊かさと共に、いじめ対策にどれほど力を入れているかがうかがえる。

網走市ではスクールカウンセラーも巡回で全校配置が厳しい状況であり、予算も比べ物にならないが、まず第一にそのような資格を持った「人」がいない、という現実がある。しかし、大切な子どもたちのためにも一歩ずつでも配置できるように取り組んでいきたい。

そして、子どもの発達科学研究所の講義はLIVE配信もあるようなの

で、網走の教職員の皆さんにも是非受けて頂き、いじめの予防に真剣に取り組んで頂きたい。私自身も、こうした取り組みをしっかりと推進していきたい。

3. 「検診受診率アップ大作戦」について

<視察日> 令和5年10月19日(木)

<視察先> 兵庫県淡路市

<視察内容>

淡路市は、コロナ禍での受診控えや低調ながん検診受診率を向上させるため、令和4年度から「ナッジ理論」とAIを活用した個別通知や個別再勧奨、積極的啓発等を行い、特定健診、がん検診の受診率アップに取り組んでいる。

「ナッジ理論」とは、近年アメリカで生まれた行動経済学の新しい理論で、ささやかなきっかけを与えることで、人々の行動を変えてしまう「行動変容」の学問である。この「ナッジ理論」は、今や世界中でマーケティングや広告、政策手法にも取り入れられている。

淡路市では、国際基準であるISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)やプライバシーマークを取得し、個人情報等の危機管理における保護体制を取得している業者を選定、委託して、レセプト情報を基に委託業者の特許技術である人工知能AIを用いた分析で、検診の未受診者を健康意識に応じてタイプ分けし、ナッジ理論を活用して、夫々のタイプに合った受診勧奨ハガキを送ることで効果的に受診率のアップにつなげようとしている。

具体的には、40歳から74歳の国保加入者8,500人のうち過去3年間未受診は3グループ、1回でも受診した人は4グループに分けて、通知の内容を変えて送り分けをしている。

【タイプ分け】

- 「心配性さん」→病気を怖がったり心配しているやや神経質な人→検診は自分を病気から遠ざけてくれて安心できるもの、特定健診には必ず医師と相談する時間があります、というメッセージ。
- 「頑張り屋さん」→運動習慣があり、健康意識が高い人→健康管理への努力を認めつつ、年1回の受診が必要だ、と訴える。
- 「甘えん坊さん」→やや太り気味でサポートが必要な人→検診を受けている人の年間医療費は約3万7,000円も安い！など検診への一歩を前向きに後押しするメッセージ。
- 「めんどくさがり屋さん」→生活改善意欲がなく、健康に興味がない人→心理的抵抗を感じにくいシンプルなデザイン。特定健診で受ければ最大約1万2,700円の検診が0円に！
- 検診履歴がない人→まずお気軽にお電話ください。検診受診のご相談や疑問にお答えします、というメッセージ。

【送付方法】

- 国保の男性、奇数年齢の女性→特定健診とがん検診について5つのパターン
の勧奨通知
- 国保の40～69歳の偶数年齢の女性→子宮頸がんと乳がん検診の勧奨通知
- 国保外の20～69歳の女性→子宮頸がん検診の勧奨通知
など年に2回、違うパターンで送付。

【がんの種類別】

- 子宮頸がん→早期発見で治癒する確率約96%
かかる費用1,500円、かかる時間約1分
- 乳がん→誰でもがんになる可能性がある、継続受診が必要
※どちらのハガキも、基本情報はシンプルに分かりやすさを重視！
検診受診までの行動を掲載！

【実績】

- 特定健診→5,900人に通知→1,231人が受診 20.9%
- 乳がん検診→1,967人に通知→208人が受診 10.6%
- 子宮頸がん→3,478人に通知→219人が受診 6.3%

<感想>

「ナッジ理論」とAIを活用した受診率アップの取り組みには、大変感銘を受けた。

受診勧奨通知の到着直後から「ハガキを見て」と受診予約の申し込みが多数あり、これまで未受診であった人たちが2割以上も受診したということは、一定の効果があったと思われる。

「ナッジ理論」の導入を市職員だけでやろうとすると「課題の設定」や「ナッジの設計」、そして「評価」と、大変難しい作業になると思われるが、専門の業者に委託すると市の負担はかなり減る。実際には、委託業者がAIを使ってタイプ分けをしてくれ、その人たちに送るハガキの内容をいくつか提示されたものの中から市が選べば、あとは印刷から郵送まで委託業者がやってくれるそうだ。

この委託事業者は厚労省大規模実証事業にも共同研究者として参加しており、ベストナッジ賞を受賞し、厚労省発行のナッジ理論に関するハン

ドブックの企画作成も請け負うなど、保健事業におけるナッジ理論活用の第一人者だという。良い事業者を選び、委託し、市が検証をしながらPDCAサイクルを回して受診率向上の体制を築いていくことが大切だと思う。

また、淡路市はこのアップ大作戦の他にも、集団検診のweb予約導入やLINE公式アカウントでの健康情報の発信、集団検診における特定健診とがん検診の同日実施、電話や訪問による受診勧奨も別の業者に委託して行っており、がん検診に関しては多数の無料クーポン券を出している。こうした取り組みの総合的な成果として、特定健診の受診率は令和3年度の38.8%から令和4年度は43.2%と約5%も上がっている。網走の24.5%とは比べ物にならない。

このように、元々38.8%という高い受診率だったにもかかわらず、ナッジ理論とAIの活用という新しい角度でのアップ大作戦を行ったのは、令和元年の40.2%からコロナ禍で2年連続で受診率が落ちたことで、兵庫県から「重点自治体」に指定されたためだった、とお聞きした。県自体の健康意識の高さにも感心した。

更に、財源は特定健診受診勧奨は400万円で、平成27年に創設された国民健康保険の「保険者努力支援制度」を活用し、がん検診受診勧奨は250万円で、一般財源。福祉総務課の主査が財政を担当していた経験があるそうで、こうした国の補助制度をうまく活用していると感じた。

金額的には網走でも出来ない額ではない。これまでなかなか有効な打開策が見つからなかった網走市だからこそ、是非、「ナッジ理論」とAIを活用した専門のノウハウを持つ業者を選定・委託して、長年の課題である受診率向上に取り組んで頂きたい。

無料クーポン券の配布は、以前、質問したことがあるが、財政的に難しい、との答弁だった。しかし、「ふるさと寄附」の基金の活用や淡路市のように「保険者努力支援制度」等を活用すれば、無料クーポンや電話や訪問での勧奨も取り組めるのではないだろうか。

また、網走市は、特定健診は市民環境部の戸籍保険課、がん検診は健康福祉部の健康推進課と担当部署が分かれているが、淡路市は健康福祉部の中に福祉総務課と健康増進課が含まれている。そこに財政に明るい職員がいることで更に良い相乗効果を生んでいると思った。こうした体制的な部分も検討の余地があるのではないかと思う。

4. 「山南学園整備事業」について

<視察日> 令和5年10月20日（金）

<視察先> 岡山県岡山市立山南学園

<視察内容>

岡山市では、少子化に伴う児童・生徒数の減少という課題を克服し、学校規模の適正化と特色ある教育の実施による教育環境の向上を目指して、山南中学校区内の4つの小学校と山南中学校を再編し、令和4年4月に県内初の9年制の義務教育学校を開校した。

山南学園に到着すると、まず、松浦敏之校長が自ら校内を案内してくださり、その後、山南学園設立までの経緯や設立に向けた取り組み、整備事業の概要、教育理念や「義務教育学校」としてのユニークな取り組み事例等をお聞きした。

【9年間一体型校舎の工夫点】

山南学園は、元々あった山南中学校の敷地内に前期課程（小学校）の校舎を増築したのだが、既存校舎も改修し、全ての教室に固定プロジェクターと映像を映し出せる専用黒板が設置してある。英語の授業を行っている教室ではその黒板に海外の英語番組が映され、音楽に合わせて、子どもたちが楽しそうに歌っていた。そこには英語の教師だけでなく、ALT（外国語指導助手）もいて授業が行われていた。

校舎には3つの理科室や2つの音楽室、金工/木工室、図工室、美術室、被服室、調理室などがつくられており、保健室も2つある。私たちがお話を伺った「チャレンジ山南ルーム」はプレゼンテーションを行う部屋で、壁一面にスクリーン機能があり、机は五角形、色々な人数の組み換えが出来るように工夫されており、図書館とつながっている。英語教室には高さの調整が出来る机が導入されていて、スタンディング形式にも対応できる。

廊下のあちこちにはデジタルサイネージシステムを導入した大型パネルが設置されており、行事日程や天気、気温等と共に、「網走市の視察」もしっかり表示されていた。また、様々な行事の写真や「まなびスクール」の地元の先生たちの顔写真などが貼ってあり、一つ一つの行事や人を大切にしている雰囲気に溢れていた。

生活科室の「よつばホール」には、統合された4つの小学校の記念品や写真が展示され、仕切り壁によって広さを変更できるようになっていた。また、グランドに出られるようになっているので、猛暑で熱中症になりそうなときは、ここに避難することも出来る。正面玄関はスクールバスの乗降場所になっており、雨天時でも雨に濡れずに乗降できる。

職員室は1～9年生、特別支援学級も全て一つの部屋になっており、机は天板と引き出しが別になっているため移動が楽。PTAの人たちが自由に使える部屋や地域の方々との交流の場にも使える200名収容可能なランチルームなど様々な工夫と充実に目を見張った。

【9年間を見通した一貫教育】

山南学園では、小1～中3までの9年間で1～4学年を「初等部」、5～6学年を「中等部」、7～9学年を「高等部」として「4-2-3制」としている。初等部では、第4学年にリーダーシップを発揮させる工夫、中等部では、高等部と意図的に交流機会を設け、身近な将来像を見つめさせる、高等部では、自己有用感を育て、より大きく成長しようとする態度を養うことを目的としている。

教育目標 「自分を高め、未来を切り開く人材の育成」

目指す子ども像

- 「国際性」 グローバルな視点を持ち、世界で活躍する子ども
- 「人間性」 地域を愛し、地域から愛される子ども
- 「行動力」 豊かなコミュニケーション能力を備えた子ども

山南学園の重点取り組み

○外国語活動、外国語教育の充実

- *外国語指導助手（ALT）や外部講師の配置
- *第1学年から外国語活動の導入
- *中等部における高等部教員による授業

○総合的な学習の時間「山南ふるさと学習」

- *ESD（持続可能な開発のための教育）の視点を取り入れたカリキュラム
- *地域人材や企業等の参入
- *ボランティア活動、キャリア教育の充実

○ICT環境の整備と活用力の育成

- *教室に固定プロジェクターと専用黒板の設置
- *デジタルサイネージシステムの導入
- *プレゼンテーションルーム（チャレンジ山南ルーム）の活用

○自尊感情を育み、豊かな人権感覚を育む取り組みの充実

- *異学年交流・活動の充実
- *全職員で全ての子どもをサポート
- *地域社会や家庭との連携・協働体制の構築

○未来を生きるための社会性や豊かなコミュニケーション能力の育

成

- * 言語活動の充実・語彙力の獲得
- * 学びにおける基礎・基本の徹底

<感想>

網走市も人口減少、少子化により子どもたちの数は減る一方で、近い将来、学校の統廃合は避けて通ることは出来ない。その時に最も問題になるのが、統合され廃校となってしまいう学校の地域住民からの反対や寂しさとの折り合いではないか、との思いがあり、この点をまず、聞きたかった。

ところが、統廃合の起点となったのは、地元・大宮学区連合町内会長からの要望だった、と聞き、驚いた。要望があった平成30年、大宮小学校は児童数16名、翌年・令和元年には12名になっている。網走以上の少なさである。危機感を募らせた町内会長から「中学校区内の4つの小学校を再編成し新しい学校を作りたい。残りの3学区の町内会長は自分がまとめるので、教育委員会も協力してほしい」との相談があり、ここから義務教育学校設立がスタートした、とのこと。素晴らしい町内会長に拍手を送りたい。更に、単なる統廃合ではなく、新しい視点に立った「県内初の9年制の義務教育学校」という明るい未来に向かった構想も賛同を得る大事な視点だったと思う。網走にも「呼人小中学校」はあるが、中身は全く違う。更に、最初に、統合される4小学校のPTA主導で「あり方を考える会」が開催され、校名も地元住民や児童生徒から募集、制服は中学生がファッションショーを行い投票で決定する、など地元主体、子ども中心で進められたことも大きかったのではないかと思う。

また、デジタルサイネージシステムやプロジェクターと専用黒板などのICTの活用も素晴らしく、あんな楽しそうな英語の授業を9年間受けられるとは羨ましい限りである。しかも、ALTが常勤でいるので、本物の発音と会話を生で学べる子どもたちは本当に幸せで、可能性は無限に広がるのではないかと実感した。

9年制になったことで、英語や音楽、美術などの専任教師が非常勤ではなく常勤で加配されるため、担任の教師の負担も減り、高等部の教師が中等部にも教えに行くなど、教師の相互乗り入れが可能となり、1年生と6年生、2年生と7年生などの異学年交流も核家族が増えている現代では貴重な体験となるのではないか。更に、5・6年生から希望者は高等部の部活動に参加することが出来、5年生から児童生徒会の選挙にも出られるなど、9年制だからこそその取り組みは注目に値する。

9学年の保護者をまとめるPTA活動に関しては、なかなか難しい課題もあったようだが、最初に統合を提案した連合町内会長など開校に向けて、

熱い思いをもって取り組んで来てくれた方に会長、副会長に就任してもらうことで収まったとのこと。

地域とのつながりを重視し「地域を愛し、地域に愛される子どもたち」の育成を目指した「ふるさと学習」への取り組みは、網走市も是非見習って行きたい。

また、教室の机にはタブレット端末が落ちないように「ふち」のついたプラスチック板が取り付けられており、これはすぐにでも網走の小中学校に取り入れてもらうよう提案していきたい。

そして、教師は子どもたちの最大の教育環境である。松浦校長をはじめ、先生たちの「山南学園をもっと良くしていきたい」との情熱とスクリーンに映し出される子どもたちの笑顔が強く心に残る視察となった。午後からは文部科学省の視察も入っているようで、国も注目する先進的な取り組みを視察することが出来、心から感謝したい。全く同じ形は難しいかもしれないが、今後、取り組まなければならない学校統廃合と網走の未来を担う大切な子どもたちの教育行政に少しでも役に立てるよう、しっかりと取り組んでいきたい。

令和5年度文教民生委員会視察

網走市議会文教民生員会
副委員長 村 椿 敏 章

網走市内の学校におけるいじめが問題になっていますが、どうしたらいじめをなくすことができるか。深刻化させないか。大阪府寝屋川市と吹田市の取り組みを視察しました。

寝屋川市の取り組み

経緯 いじめゼロに取り組んだ経緯は、現市長が子育て世代が寝屋川市に住みたいと思えるように、安心して学校に通える環境をつくるため、「いじめゼロ」の対策を強化しました。

監察課を新設

市長部局の危機管理部に新たに監察課を設置し、4名体制（ケースワーカー含む）で対応している。

教育的アプローチと行政的アプローチを並走させる取り組み

教育的アプローチは、今まで行われてきた学校における教育的な指導による人間関係の再構築を目的としています。

行政的アプローチでは、いじめを人権問題として捉え、被害者と加害者の概念を用い、いじめを即時に停止させ、事態の早期収集を図ることを目的としている。対応事例は、監察課に直接通報、相談があった場合、監察課が被害者等に直接聞き取り、解決方法を確認する。その後、学校に調査をし、いじめの事実確認、情報共有を行った上で、いじめ判定会議において、いじめの有無、今後のアプローチを検討する。監察課においていじめ行為の停止を確認し、学校での予防、見守りを強化する教育的アプローチに移行した後は、3ヶ月間、継続的に被害者の安全確認を行っており、この間に再発の恐れがない場合に終結といたします。学校が認知し対応を始めた事案についても全て情報共有を行い、初期段階から監察課が対応している。

ほとんど9割は教育的アプローチで解決している状況。時間をかけずに早期に解決させたい親もいる。親の選択肢を増やしている。

初めは、先生方は抵抗があったが、市が動いて早期に解決することに理解を示してくれている。

攻めの情報収集

「いじめ通報促進チラシ」を毎月学校で全児童に配付している。チラシにいじめの内容を記入してポストに入れると監察課に届く。早期発見の

効果といじめる側への抑制になるということでした。2021年度に始めていて53件、2022年度56件、2023年度は微増となっていて、少しずつ増えている状況です。

感想

寝屋川市の取り組みは、学校現場に市の監察課が調査に入ることによる混乱もあるのではと考えていました。市の説明では、教育的な指導による人間関係の再構築を望むか、いじめを人権問題と捉えいじめを即時に停止させることを望むかの選択肢を増やすということでした。親も先生も理解してくれているとの説明でした。

しかし、教育的アプローチで早期に解決できない原因は、先生が足りていないことにより、教師集団の話し合いの場が保障されていないことや生徒に向き合う時間が少ないことにあると考えます。先生を増やすことが、一番にやらなければならないことです。

教育的アプローチにしても、いじめは人権問題であることは変わりません。いじめは絶対あってはならないことです。早期に発見するための児童・生徒への教育や先生への研修が欠かせないと考えます。迅速な対応をする。被害者のプライバシーを守る。関係者がいじめの全容を認め合うことが大事だと考えます。

吹田市の取り組み

吹田市では2017年にいじめ重大事態が発生し、2019年から対策を強化。すいたグリーンスクールプロジェクトを学校、教育委員会、市長部局で実施。

いじめ予防推進事業

全児童生徒を対象に「いじめ予防プログラム」（公益社団法人 子どもの発達科学研究所のテキスト）の授業を年間3時間実施。いじめかもしれない出来事が起きたとき、その被害者や目撃者がどのような行動を取ればいいのか、いじめが起きないクラスをつくることについて学びます。2020年から始めていて、傍観者に対する教育を重視して、早期発見につなげています。

人的配置

校長経験者などが学校を訪問し、いじめの対応を教職員にアドバイスをする「いじめ対応支援員」、小学一年生の生活や学習をきめ細かく支援する「スターター」、学校で緊急な対応が必要な場合にもコーディネート機能を発揮する「スクールソーシャルワーカー」、いじめ対応専任相談員が心理の専門家として子どもや保護者へのカウンセリングをする「スクールカウンセラー」学校で起こる様々な事柄やトラブルに対して法的な視点でのアドバイスや教職員への研修を行う「スクールロイヤー」の配置。第3者調査委員会の常設をしている。

感想

吹田市の取り組みは、いじめ防止プログラムを毎年続けることにより、子どもたちがいじめについて考えさせていること、先生に研修の機会を保障していることなどからクラスにいじめを出さない風土をつくるというのは、原則的で良いと思いました。また、人的な配置を行うことで先生の負担を減らすことにつながると思います。

網走市の特定健診率は24%と全国的に見ても非常に低い状況です。病気の早期発見をすることで、重症化を避け、医療費の減少につながることで保険料の上昇を抑えることにつながります。受診率向上の取り組みを視察しました。

特定健診率の推移

	2018年度	2019年度	20年度	21年度
網走市実績	25.1%	24.0%	24.4%	24.0%
北海道実績	29.5%	27.0%	28.9%	27.9%
全国実績	37.9%	38.0%	33.7%	36.4%

淡路市の取り組み

兵庫県淡路市では、早期発見治療、健康意識向上、病気の重症化予防、医療費抑制のために、受診率の目標を毎年上げる取り組みをしています。

受診率向上対策として、集団検診のインターネットによる予約、ラインによる健康情報の発信、特定健診とがん検診を同日に実施しています。

受診率アップ大作戦として、A I等を活用し受診できていない人へ勧奨通知や再通知、電話や訪問による勧奨をしています。委託事業費は400万円ほどです。

国保加入者の特定健診は約8,500人、その内勧奨通知は5,900人。勧奨後に1,231人が受診しています。

A I等の活用：過去の特定健診の受診履歴結果、問診票のデータを分析して、勧奨すれば受診確率が高い人を優先にし、健康意識（心配性、頑張り屋、甘えん坊など）に合わせた個別メッセージを用いた通知を送る。

財源：特定健診勧奨：国保会計の保険者努力支援分
がん検診：一般財源

特定健診率の推移

淡路市	2018年度	2019年度	2020年度		2021年度	2022年度
目標	40%	44%	48%		52%	56%
実績	37.7%	40.2%	37.1%		38.8%	43.2%

感想

委託事業者が、A Iを活用して勧奨し、未受診者が「受診してみようかな」と考えるよう工夫をしていることに共感しました。個人情報保護

の取り扱いについては、十分な調査が必要だと感じました。

受診者と未受診者で生活習慣病にかかる医療費が大きく変わることから、検診をすることで医療費の抑制につながります。医療費を抑えることにより、国保料の上昇を抑えることにつながると考えます。

網走市の小中学校生徒は2012年度3,030人から2022年度2,240人と減り続けています。少人数学級により学びの保障するため、先生を増やす取り組みが必要です。

人数の少ない学校を運営するにはどうすればいいか。他市の取り組みを視察しました。

岡山市山南学園の取り組み

岡山市では4つの小学校を廃校し、一つの中学校にまとめ、9年生の義務教育学校「山南学園」として、2022年4月に開校しました。2018年度に大宮小学校学区の連合町内会長からの学校再編の強い要望から始まり、協議会設立、義務教育学校準備チームの発足など地域が一体となつてつくった学校といえると思います。

教育目標

「自分を高め、未来を切り開く人材の育成」

目指す子ども像

- ・「地域を愛し、地域から愛される子ども」
- ・「グローバルな視点を持ち世界で活躍する子ども」
- ・「コミュニケーション能力を備える子ども」

となっていて、9年間の一貫した教育を通して育成します。

給食は、市の給食調理員による自校給食です。給食室はガラス張りです。作っている様子が見られるようになっているのは、市民への学校給食へのアピールになると思いました。

通学は7～9年生は自転車、1～6年生はスクールバス（4路線）か徒歩となっていて、課題は子どもが乗るか乗らないかの把握に苦労していることです。

感想

学校の様子を拝見したところ、英語の授業では笑い声があり、元気で楽しく学んでいるなど感じました。ただ、その流れに乗ることができない子どもたちがいることも忘れではいけないと思いました。どこの学校でもあるのでしょうか。

「自分を高め、未来を切り開く人材の育成」という目標は小中学生にはそぐわないように感じました。「深く考え 互いに認め合う 学びの場」（網走中央小学校）の方がずっと良いと思います。

廊下にある絵や作品などは独創的なものが多いと感じました。新しい学校での生活に様子がわかりました。

帰りの通学バスが2便で出していることは良いと思いました。

令和5年度文教民生委員会視察報告書

網走市議会文教民生委員会
委員 金 兵 智 則

2023年10月17日（火）～20日（金）

今回の視察研修に参加させていただき、他都市の先進事例を現地にて直に勉強ができる機会を無駄にしないように、また網走市の将来に役に立てられるように、少しでも何か持ち帰れるようにと取り組ませていただきました。

現地で対応していただいた皆様や、委員長・副委員長や委員の皆さま、また今回同行していただいた議長のおかげもあり、有意義な時間を過ごせたと思っております。

下記に私なりに感じたことをまとめさせていただきました。

大阪府 寝屋川市『子どもいじめ防止対策について』

大阪府 吹田市 『いじめ防止の取組について』

昨年度、網走市でも重大事態に認定されたいじめが数件発生し、今後、子どもたちの安心安全をしっかりと守るため、また先生方に過度な負担がかからないよう、学校や市において様々な取組が必要となると考え、先進的に取り組んでいる大阪府の寝屋川市、吹田市を訪れることになりました。

まず、寝屋川市では、子育て支援策の強化による子育て世帯の誘因の一環として、初期段階からいじめを見過ごさない、許さないという考えのもと、これまでの学校・教育委員会による通常はいじめ対応を教育的アプローチとし、それと並行して、市長部局にいじめの対応の専門部署である「監察課」を創設し、行政的アプローチとして2つのルートによりいじめ問題に対応する仕組みを作りました。行政的なアプローチでは、いじめを人権問題として捉え、被害者と加害者という概念を用い、いじめを即時に停止させ、事態の早期収拾を図ることを目的としておりました。教育的アプローチ・行政的アプローチ共にメリット・デメリットがあり、教育的アプローチではほとんどのいじめ事案が解決するというメリットがある一方で、児童生徒と教職員の問題への対応が困難であったり、解決までに時間を要するといったデメリットがあるそうです。行政的アプローチでは短期間で判断・解決が出来、児童生徒と教職員の問題にも対応が出来るといったメリットがありますが、加害者・被害者の概念を用いるため、人間関係の再

構築が困難というデメリットがみられるそうです。ですので、どちらか一方を強化するのではなく、目的の違う2つのアプローチを行える状況を用意することで、相談者が望む形の解決方法を選択できることや、教職員の負担軽減が図られるなど様々な角度からいじめ問題の対応が行えるようになってきているとの事でした。教育的・行政的アプローチでも解決できない事案については、法的アプローチの一環であるいじめ被害者支援事業として、市が被害者保護者に対し、民事での訴訟や警察への告訴を行うにあたっての金銭的支援等を行うとともに、被害者または加害者の転校に伴う費用の一部を金銭的に支援する補助制度を設置しているとの事です。この取り組みを行った結果、いじめの認知件数は増加しているそうです。理由としては、監察課の取組が浸透したために、軽微な案件でもいじめを把握し報告していること、また、相談窓口が増えたことにより、相談へのハードルが下がり相談しやすくなったことが考えられるそうです。加えて、監察課ではいじめ通報促進チラシを作成、配布し積極的な情報収集を行っていることも、効果に表れているそうです。

一方、吹田市では平成29年度にいじめ重大事態が発生し、第三者調査委員会からの提言を受け、2度と同じ過ちを起こさないために、学校・教育委員会・市長部局の連携のもと、早期発見・早期対応・未然防止に向けた体制強化を行うために、「すいたGRE・ENスクールプロジェクト」という取り組みを進めることにしたそうです。中身は多岐にわたりますが、学校問題解決支援員やスターターと呼ばれる支援員の配置、スクールソーシャルワーカーや専任のスクールカウンセラーの配置など人員の増強や、いじめが起こりにくい学校風土の熟成に向けた取組みとして、教職員研修や各校リーダー研修など、科学的根拠に基づいた学校風土・いじめ調査、全小中学校の児童生徒を対象に対象学年ごとのテキストを用いたいじめ予防授業、これらを一体的に実施する事業を行ったり、GIGAスクール構想に基づく学習用端末を活用したいじめ防止相談ツール「マモレポ」の構築・運用を行っているそうです。事業の効果としては、様々な取組でいじめに対する問題意識の浸透が図られたためか、いじめ認知件数は令和2年度と令和4年度を比べると約2.5倍に増加しておりますが、いじめ解決までに要する時間は短縮しているそうであり、課題として、いじめ予防授業などを続けることにより、理解は進むかもしれませんが、形骸化することも考えられることと、やはり学校間格差が生じていることなどがあるそうです。

どちらの市もいじめをなくすという考え方なのだと理解するところですが、お話しを伺った印象として、寝屋川市はいじめが起きてしまった場合にすぐに解決することを、吹田市はいじめをなるべく起こさないよう

にという部分に重点を置かれているのかなと感じました。どちらが良いということはありませんが、せっかく様々なお話を伺わせていただきました。現状、網走市では重大事態の調査が行われている段階であり、今後いじめ問題に対しての取り組みが必要となってくると考えられますので、その時に、今回伺ったお話を参考にしながら、網走市としてどのような取組を行うべきなのか、私としても様々考えながら、教育委員会に提案していく必要があると感じました。

兵庫県 淡路市 『検診受診率アップ大作戦について』

淡路市では、医療費の抑制を図るため、早期発見早期治療、市民の健康意識の向上、疾患の重症化予防を進められるよう、特定健診・がん検診等の受診率を向上させるための取り組みを行っています。網走市に限らず、どこの自治体も同じような考えのもと事業が行われております。淡路市の特徴的なところは、未受診者への勧奨通知や、再勧奨通知をするときに、AIを活用し、より興味を持ちやすい内容の通知はがきを作成、送付しているところです。

淡路市は網走市と比べても、高い検診受診率であり、令和元年度には40%を超えておりました。その後は、コロナが発生し、受診控えなどもあり37~8%と受診率の低下がみられましたが、コロナが落ち着いてきた令和4年度には43%と目標には届かないものの、受診率の向上が図られているそうです。AIを活用した受診勧奨ハガキの取り組み「検診受診率アップ大作戦」と呼ばれる事業は令和4年度から行われており、この効果もあったのかもしれないという状況です。その他、電話や訪問による受診勧奨まで行われているそうです。検診受診率アップ大作戦はAIを活用し、過去の受診履歴等から勧奨効果の高い対象者を選定、その中で優先順位が高いのは勧奨すれば受診する確率の高い方で、逆に優先順位が低い方は受診勧奨しなくても受診する確率の高い方だそうです。対象者の選定に加えて、対象者を特性に応じた4つのグループに分け、この分類分けによって通知の内容を変え、健康意識に応じた効果的な送り分けを行っていくそうです。現地では、作成された勧奨ハガキを見せていただきましたが、各グループの適正に即した興味がひかれるような内容が書かれ、カラーで印刷がされた大変見やすいものでした。この事業は委託で行われており、AIの活用においては、委託業者の特許技術であり、勧奨後の反応確立なども追えるため、より効果的で効率的な対象者の抽出が可能となるそうです。委託料については、受診勧奨に係る部分で約400万円だそうです。

その他にも、いろいろお話しをお伺いしましたが、この事業内容をこれくらいの委託料で行えるのは、費用対効果の面からみても単純に素晴らしいと思いました。正直、このような事業を市の担当課のみで行うのは難しいと思いますし、委託しているからこそ、その他電話や訪問による勧奨も行えるのではないかと感じるそうです。網走市の受診率の低さを考えたときに、網走市としてもこの事業に取り組む必要性を感じた視察でありました。

岡山県 岡山市 『山南学園整備事業について』

市街地から少し離れた農村部に、昨年度義務教育学校として新たに開校した山南学園に現地視察を兼ねて、伺わせていただきました。この学校は中学校区にあった4つの小学校と1つの中学校を統合し、9年制の義務教育学校として設立しました。きっかけは、平成30年6月末に、当時全校生徒が20人弱となっていた小学校区の連合町内会長から、小学校4校を再編成し、新しい学校を作りたい。他の3学区の連合町内会長はまとまるので教員委員会も学校づくりに協力をしてほしいという要望があったためとの事です。その約三か月後の9月には4小学校の連合町内会長が、PTA主導であり方を考える会を開催する事で合意し、10月上旬には義務教育学校の設立を要望していくことでおおむね合意が図られたそうです。その後は、学校、保護者、地域、行政と多くの方々と協力をしながら、協議等を進めてきたそうです。

山南学園では小学校6年間、中学校3年間の9年間を4-2-3制とし、小学校にあたる6年間を前期課程、中学校の3年間を後期課程と分け、前期課程のうち、1年生から4年生を初等部、5、6年生を中等部、後期課程の7から9年生を高等部としていました。校舎は、既存の中学校に前期課程いわゆる小学校部分を増築して使用しています。小学生、中学生が同じ校舎にいるため、体育館や理科室などが2つあったり、地域の方々との交流が行えるような200名規模のランチルームがあったりと、かなり充実した施設でした。ちなみに、今回の統合を契機に給食を自校給食に戻されたそうです。また、子どもたちもすごく明るく過ごされていたのが印象的でした。校長先生のお話を伺うと、後期課程の生徒の表情が柔らかくなったと感じられるようで、やはり年が離れているため、世話をしなければという気持ちになるからではないかとのことでした。また、義務教育学校になったことにより、先生の数も増えたことと、前期課程では従来の専科の先生に加えて、高等部（中学校）の先生が中等部（5,6年）の指導に入るようにしたため、学級担任の週当たりの授業数は21時間程度となり、教材研究をする教科数の減少とともに、負担減になっているそうです。加えて、敷地内には放課後児童クラブもあるなど、子どもたちのみならず、保護者にも安心な施設整備がされている印象でした。

網走市も児童生徒数の減少は今後も続いていきますので、現状の学校環境をいつまで維持できるのか、するべきなのかという事を考えて行かなければならない時期に来ていると思われれます。山南学園は地域からの要望がきっかけとなっており、地域との協力体制が早くから作れたことが、事業がスムーズに進んだ要因でもあると感じました。今後、網走でも様々な状

況を踏まえ、学校再編について考えていく必要があると思いますので、地域との協力を持って進められるような進め方を考えていければと思っております。また、もし学校再編を進めるとなった場合には、義務教育学校、小中一貫校などの選択肢も含め、広い視野で検討が進むよう私も協力していかなければならないと感じた視察でした。

令和5年度文教民生委員会視察報告書

網走市議会文教民生委員会
委員 栗田政男

◎寝屋川市のいじめゼロに向けた新アプローチについて

人口23万人の大阪府北河内エリアに位置する寝屋川市は、平成31年に中核市に移行した大阪のベッドタウンである。10年前に所属会派の視察で高齢者の見守りサービスについて伺い、先進的な行政の取り組みが多い都市との認識である。

旭川市のいじめによる死亡事件や当市においてもいじめ問題が発生している状況の中で、寝屋川市の市長部局の積極的な取り組みは、いじめ問題解決の一つの指標のようである。寝屋川市では市長部局に監察課を設置し、行政側からアプローチしていること、いじめ対策の条例も令和2年に制定するなど、市の取り組みの本気を感じた。

◎吹田市のいじめ防止の取り組み

吹田市は大阪市に隣接した人口38万人の中核市である。寝屋川市とは異なり教育委員会のスキルアップにより、いじめ問題に取り組んでいる。教職員の適時配置や支援員の配置など、いじめ防止も含めた対策を行っていた。

大阪2市の取り組みは、子供社会が潜在的に持ついじめの要因を徹底的に排除していくことで、大変な労力と長い時間を要するが、必ず成果を上げるものと思う。当市においても、全市上げての取り組みの必要性を強く感じた。

◎淡路市特定健康診査・がん検診事業

20数年ぶりに淡路島を訪問する機会を得た。今回は淡路市の健康診断の取り組みの調査であるが、以前は阪神淡路大震災直後の島の調査であり復興へ歩み出したばかりの状況だった。

さて、淡路市では地方都市での健康管理の重要性から、特定健診をより多くの市民に普及させることが、財政面だけでなく市の将来のためにも必要との取り組みであった。国保加入者の受診率が50%を超えていることは取り組みの成果である。

兵庫県下の淡路市は神戸・大阪のベッドタウンになりつつあり、観光地としてだけでなく住む場所としての淡路島も進展しそうである。

◎岡山市 山南学園の取り組み

人口減少の中、特に子供たちの減少は都市部・地方都市共に大きな問題となっている。その地域で持続可能な生徒数確保が難しくなっている中で、小中一貫校の設置は時代の要求なのかもしれない。また時代にあった教育環境の確保は政治の責任でもある。

全国には小中一貫校は190ほど存在し、まだ増加する予定である。岡山市の山南学園は、都市部から少し離れた田園地区に開校した学校であるが、9年間で1つの校舎で学ぶ形は、コストと教員の専門的な活用の面でもメリットは大きいと感じた。岡山市は政令指定都市であり大学も多く、教育環境のレベルが高いと感じた。今後の網走市の教育環境の整備において、大変参考になる調査であった。

当市においても、子供数の減少などで学校の再編は避けて通れない問題である。

山南学園の校訓「挑戦」

失敗することもある 上手くいかないこともある 大切なことは一歩踏み出すこと

まさに、今求められているものではないか。

令和5年度文教民生委員会視察報告書

網走市議会文教民生委員会
委員 里見哲也

各訪問先において視察して来た詳細は後述しますが、それぞれの取組みが、現在の網走市で活用可能なのか、どうなのかについて、所感を先に報告します。

所 感

1. 大阪府寝屋川市「子どもいじめ防止対策」では、市長の公約によるリーダーシップで、市役所の部署として「監察課」を設置し、市の職員が、当事者（被害児童生徒・加害児童生徒・保護者等）と面談指導して、いじめの解消に当たっている。監察課の目的は「いじめの停止」。

この実施には、「この方法で実施する」という強いリーダーシップが必須で、行政側の組織改編（新部署設置）を行い、保護者を含め学校関係者も納得させることと、継続的な事業推進が必要である。

視察した結果として、教育委員会以外の行政部局を新設するという部分は、網走市の現状では、当てはめづらいように感じますが、児童・生徒への啓発チラシ（返信の手紙付き）は活用できると思います。

2. 大阪府吹田市「いじめ防止対策」では、コンサルタント事業者への「業務委託」で、いじめ防止プログラムを作成してもらい、教材を継続的に使用（年間3時間の授業、小学～中学で発展的な内容の教材）している。新任の教員に対する育成プログラムもあり、教育委員会の内部で「学校教育部 学校教育室」と「学校教育部 教育センター」が連携して事業を実施しており、学校勤務経験がある者（教員）を行政側に採用し、教育現場の精通者もいることから、指導機関としての力強さを感じた。

業務委託先（公益社団法人「子どもの発達科学研究所」）のノウハウに拠る面が大きいですが、これを指導機関（いわばコンサル）として、現行組織の教育委員会で継続的に運用できるなら、受け入れる関係者の理解・納得も得られ、網走市においても導入できるような気がします。

次に視察順とは異なるが、4番目に視察した山南学園9年制「義務教育学校」について報告します。

4. 岡山県岡山市「山南学園整備事業」

廃校となる学校に関係する人の「心のハードル」が高い、との発表があったが、子ども達にとっては、多くが、「義務教育学校（9年制）」に通学することに対して「期待を持っていた」事例の発表であった。

つまり、大人の都合で考えるのではなく、『子供にとって良い方向性の学習環境づくり』から、考えるのが良いのではないか？

「兄弟学年」の設定であるとか、「異学年交流」など、運用は後からでも考えられるが、そもそも「義務教育学校（9年制）」のフレームワークがなければできない事業を行っている。

そのためには、まず「やる」と決める。そうすると必然的に、立場所の選定や、補充が必要なハードウェア等、揃えの必要なステップが明らかになる。

網走市内でも、いずれは避けられないであろう小中学校の統廃合問題は、言わば「前向き統合の9年制義務教育学校」に結果のスタイルを決め打ちして、スケジューリングに取り組むのが良いと考える。

その場合、提案者は誰なのか、リーダーは誰なのかが、重要なポイントになるであろう。

※上記3件の行政視察では、今までにない「しくみ」を導入することで、「いじめ対策」を行い、学校の統廃合と教育スタイルの改革を行う効果について事例を学んだが、議会の委員会として参加して得た各種資料は、網走市の担当部局への報告（会）・意見交換（会）を実施する必要があると考えます。

3. 兵庫県淡路市「検診受診率アップ大作戦」

国民健康保険加入者への受診勧奨であり、「ナッジ理論」を活用していると説明があったが、業務委託先のノウハウであり、運用の詳細は不明。網走で同様の実施をする場合には、同様のノウハウを持つ事業者との提携が必要であると考えます。また、「けんぽ」加入者との比較（公平性？）を考えると、国保だけの取組みよりも、何らかの方法で、全市民を対象とした取組み方法を検討する方が良いのでは？と感じている。

各訪問先での視察内容（詳細）

1. 大阪市寝屋川市「子どもいじめ防止対策」：10月18日（午前）

人口 22 万 6 千人の中核都市

令和元年 4 月に就任した広瀬市長のリーダーシップで、いじめ防止のため行政が積極的に関わる取組。

市役所に「監察課」を設置し、いじめの相談を直接受け付けて、条例に基づき、基本的に 2 名の職員が直接、事実確認を行い（子ども・保護者）、学校と連携していじめの解消に当たっている。監察課の目的は、いじめの停止。行政が第三者の立場で介入する手法。

「攻めの情報収集」として、毎月 1 回、市立の全児童・生徒に「いじめ通報促進チラシ」を配布。チラシは監察課宛の「お手紙」として使用できる様式にもなっている「求めます、あなたの情報！」。

これは、いじめの情報収集（早期発見）と、いじめの抑止効果を狙い、実施している。

・監察課の職員は 8 名（ケースワーカー含む）。市のいじめ対応は、教育的・行政的・法的に分担。

- ① 教育的アプローチ（学校・教育委員会）では、教育問題として対応する。「人間関係の再構築」
- ② 行政的アプローチ（市役所監察課）では、人権問題として対応する。「事態の早期收拾」
- ③ 法的アプローチ（弁護士・警察・裁判所）法的問題の対応。「責任の追及、損害の回復」

教育現場に行政（監察課職員）が人権問題として、直接入り込む。これが機能するためには、市長のリーダーシップと、学校や保護者の理解協力が必須。また、監察課の職員にとっても、目的を達するスキルが必要である。リスクの分散を、役割の分担（教育的・行政的・法的）として、協働して行う。

2. 大阪府吹田市「いじめ防止対策」：10月18日（午後）

人口 38 万 1 千人の中核都市で、現在も人口増加中。

平成 29 年に発生した「いじめ重大事態」が「きっかけ」で、早期発見・早期対応・未然防止に向けた体制を強化。

「学校」「教育委員会」「市長部局」で「すいた GRE・EN スクールプロジェクト」を実施。

いじめ予防推進事業として、「いじめ予防研修」を実施。いじめ防止相談ツール「まもレポ」の構築、運用、スターター（支援員）の配置、スク

ールソーシャルワーカーの配置ほか、対応体制を構築。

公益社団法人「子どもの発達科学研究所」に業務委託して、「教員向けプログラム」「TRIPLE-CHANGE プログラム」の開発と、年間3時間の授業を実践している。

学校研修センターでは、市内校に新しく配属される教員に対し(毎年100人)、この取組みを指導。子供たち一人ひとりを大切にする教職員の育成を重視している。

「TRIPLE-CHANGE プログラム」では、教材を使って、小学低学年・高学年・中学生、に向け、継続発展的に①正しい知識、②正しい行動、③集団を変える、ことで問題解決に取り組む。傍観者に対する教育も重視している(例:シンキングエラー「まちがいをみとめて あやまる」など)。

今年度は3年目の取組みとなるが、1年目は「知る」、2年目は「ひろげる」、3年目は「日常化・生活化」を目標に、反復継続的に理解を深める取組をしている。

3. 兵庫県淡路市「検診受診率アップ大作戦」: 10月19日(午前)

人口4万2千人で、神戸市のベッドタウン。

国保特定検診と、がん検診の受診率向上のため、AIとナッジ理論を活用している。

※国保加入者への検診勧奨(けんぽ加入者への勧奨は行っていない)。

委託会社へ、レセプト情報の提供により、AIとナッジ理論で、4つのタイプ分けと検診履歴ない者の5タイプ向けの検診勧奨パンフレットを発送している。

- ・頑張り屋さんタイプ
- ・心配性さんタイプ
- ・甘えん坊さんタイプ
- ・面倒くさがり屋タイプ
- ・検診履歴のない方

※市から業務委託先に情報提供することは「個人情報の第三者提供」として法に触れるものではない。

※業務委託料は400万円程で、ノウハウ・印刷物・発送まで依頼

※発送後に回答がない市民には、市職員がTELまたは訪問による再勧奨を実施している。

4. 岡山県岡山市「山南学園整備事業」：10月20日（午前）

人口71万6千人、岡山県庁所在地の政令市

岡山市では、ここ毎年、年1～2校「義務教育校」が生まれている。

山南学園では、1つの中学校と、その学区の4つの小学校を統合した。発端は1つの小学校のPTAから要望が出たこと。中学校の建物を活かし、小学校部分や共用部分等の増築部分で構成されている。

当初計画から開校まで4年かかっており、スクールバスや給食の取り扱い含め、校舎や教員以外にも、たくさんの準備項目がある。誰が中心となって、なんのためにこれを成し遂げるのかが重要。

- ・人口減少、廃校対策なのか？

- ・9年の「義務教育校」こそが、理想の教育プロセスなのか？（いずれ全校を対象にするのか？）

学校の教育目標は「自分を高め、未来を切り開く人材の育成」。この目標達成のために、9年間の教育課程の中で、「異学年交流・兄弟学年の設定」等、さまざまな取組を行っている。

一番大事なのは「ふるさと教育」である、と説明があった。

なお、説明者が行政担当者ではなく、学校長であったため、行政的な話よりも、学校運営の内容が主体となっていることを申し添える。

以上

令和5年度文教民生委員会行政視察報告書

網走市議会文教民生委員会
委員 古田 純也

【大阪府寝屋川市いじめ防止対策について】

寝屋川市は、人口 226,482 人で平成 31 年 4 月に中核市へ移行。公立の小学校数は 24 校で児童数は 10,100 人で、中学校は 12 校で生徒数は、5,170 人で、いじめの認知件数が他市と比べて少ない状況ではある。

重大事態が発生していない平常時にいじめ問題に取り組まれた事が特徴で学校、教育委員会とは別のルートで、第三者的な立場から迅速にいじめ問題の解決を図るため、令和元年 10 月に市長部局の危機管理部に監察課を設置し、いじめゼロに向けた新アプローチ、教育的アプローチと行政的アプローチで対応されていました。教育的アプローチは学校、教育委員会による通常がいじめ対策で、教育的な指導による「人間関係の再構築」を目的とし、ほとんどのいじめ事案(99%)が解決されているようですが、「人間関係の再構築」に長期間を要する問題点もあるようです。

行政的アプローチは市長部局監察課によるいじめ対応で、いじめを人権問題として捉え「いじめの即時停止」を目的として短時間で判断・解決に動き独自データに基づく是正勧告を実施されているようです。

2つのルート（教育的・行政的アプローチ）を並走させる意義

① ダブルチェック

※第三者的視点でいじめ対応の不備をチェック

※第三者的視点で事後の検証を実施

② 2つの選択肢を提示

※目的の違う2つのルートを提示することで、相談者が望む形の解決を選択できる

※別のルートを確保することで、教職員等との問題にも対応が可能

③ 役割分担

※教職員の負担軽減

※専門的な対応が可能

いじめ対応の三権分立として、法的アプローチを用意して賠償請求などや刑事告訴の支援、弁護士費用を補助する制度がある。

いじめの早期発見と、いじめの抑止効果につながる動きとして、『攻めの情報収集』として、毎月1回、市立の全児童・生徒にいじめ通報促進チラシを配布されているようです。

令和4年度 直接、監察課に相談件数 151 件（うちチラシによる相談 56 件）

いじめが子どもたちの人権侵害に関する問題であることに鑑み、いじめ

ゼロに向け市長部局で新たな取組を行うべく、児童等の命と尊敬を守るため、いじめの防止に関し必要な事項を定める目的として、条例を設定し保護者及び地域住民の責務の明示されている。また市長の権限の明示として、いじめの防止の申出があったときの必要な調査を行うことができる。

【所感】

いじめ問題を教育・行政・司法の側面から捉え、早期発見、いじめの即時停止に努めていることがわかりました、また条例を制定し、まち全体でいじめゼロに向けた意識の高さを実感しました。

網走市としても通常はいじめ対応とは違った、いじめの即時停止を行う監察課のような部局設置するべきだと感じました。

【大阪府吹田市におけるいじめ防止の取組について】

すいた GRE・EN スクールプロジェクトの実施について

人口 380,000 人

公立学校数 小学校 36 校、中学校 18 校（私立中学校 2 校）

児童生徒数 30,000 人

※平成 29 年度に、いじめ重大事態の生起がきっかけ

早期発見・早期対応・未然防止に向けた体制強化

未然防止～いじめ予防研修の実施、学校風土・いじめ調査の実施、

いじめ予防授業の実施

早期発見・早期対応～人的配置（いじめ対応支援員）SC、SSW、SL
校長経験者などが、いじめ対応支援員として定期的に学校を訪問している
令和 2 年度から 6 名体制

スターター（支援員）の配置として、小学 1 年生の生活や学習をきめ細かく支援し、2 年生のクラスに配置することで、いじめの未然防止、早期発見にむけた取組を充実させている。

学校で起こる様々な事柄やトラブルに対して、法的な視点でのアドバイスや教職員への研修を行うスクールロイヤーとの連携強化し、いじめ防止の会議等に定期的に参画して相談に応じている。

TRIPLE-CHANGE プログラムでは、年間 3 時間の授業を

① いじめについて考えよう→正しい知識を得る

② いじめかもしれないことが起きたらどうするか→正しい行動をする

③ いじめが起きないクラスをつくろう→集団を考える

実践している。

第三者調査委員会を常設化することで、いじめの重大事態に迅速に対応して早期解決を図るよう取り組まれている。

【所感】

いじめ重大事態をきっかけに、早期発見、未然防止にむけた体制強化を確認できました。子どもの発達科学研究所との業務委託による教育プログラムの活用は網走でも今後、検討していきたい取り組みである。

【兵庫県淡路島 検診受診率アップ大作戦について】

目的・期待される効果

※早期発見治療 ※健康意識向上 ※疾患の重症化予防
※医療費抑制（受診者と未受診者で、生活習慣病にかかる医療費は約 6.3 倍違う）

対象者は、40 歳から 74 歳の国保加入者

受診機関は、市内 23 の指定医療機関

受診率

令和 3 年度 目標 52%に対し、実績 38.8%

令和 4 年度 目標 56%に対し、実績 43.2%

ちなみに網走市は、約 4 人に 1 人（受診率 24.1%）

受診率向上対策として、

※集団検診の Web 予約導入

※LINE 公式アカウントを活用した健康情報等の発信

※集団検診における特定健診とがん検診等の同日実施

AI 等を活用した未受診者への勧奨通知、再勧奨通知（委託事業）では
令和 4 年度の実績で 5,900 通発送し勧奨後受診者が 1,231 人

委託事業者が行う、電話・訪問による受診勧奨の令和 4 年度の実績では
電話による勧奨、2,059 人実施で受診希望者 309 人

訪問での受診勧奨、相談は 1,400 人実施で希望受診者 271 人でした

乳がん検診

通知 2 回（8 月、11 月） 勧奨後受診率 10.6%

子宮頸がん検診

通知 2 回（8 月、11 月） 勧奨後受診率 6.3%

がん検診の受診率向上対策として、無料クーポン券の発行

効果的な勧奨を実現するための AI を活用した取り組みは委託業者が過去の受診履歴から勧奨効果の高い対象者を選定しているようです。

優先順位が高いのは、勧奨すれば受診する確率の高い方で優先順位が低いのは受診勧奨をしなくても受診する確率の高い方です。

勧奨メッセージも対象者の特性に応じたグループに分けられ、通知内容を変えて受診率向上に繋げていました。

メッセージ内容

心配性さん型～特定健診には必ず医師と相談する時間があります

甘えん坊さん型～検診を受けている方の年間医療費は約 3 万 7 千円安い

めんどくさがり屋～特定検診を受ければ最大約1万2,700円の検診がゼロ円

【所感】

ナッジ理論をうまく活用して健康意識を高め受診率を向上させている取り組みだと感じました。積極的に受診率を向上するためには、委託事業者との協力体制も必要であることが認識できた。

【岡山県岡山市 山南学園整備事業について】

令和4年4月に、4小学校と1中学校を再編成し新たに義務教育学校を設立

少子化・核家族化が進行し、地域コミュニティが小さくなっていく中で、『固定化しがちな子どもたちの人間関係を広げ、未来を担う人づくりを進めていくために何ができるか』という地域・保護者の熱い思いが根底にありました。

令和4年度、生徒児童数（410人） 令和5年度、生徒児童数（398人）

山南学園は4－2－3制で施設一体型義務教育学校で

初等部（1年生・2年生・3年生・4年生）

中等部（5年生・6年生）

高等部（7年生・8年生・9年生）教育課程編成されています。

地元愛や地域愛、豊かなコミュニケーション能力を高める子ども像を目指し、学校、地域が連携して子どもたちを育む取組が充実していました。

【所感】

網走市も少子化に加速が進み、小学校や中学校の統合は避けられない道でもあります

山南学園の設立に向けては、『4校を再編成し新しい学校をつくりたいので、教育委員会も学校づくりに協力してくれないか』と要望し各連合町内会長さんが各地域をまとめてくれた事がスムーズな運びとなった要因である。

9年間を見通した一貫教育は、『中一ギャップ』と呼ばれる中学校進学時の不安軽減や上級生をモデル・あこがれにしたキャリア教育の充実等にも期待できます。

学校統合による児童生徒の学力アップや自校給食の安定供給、子どもたちのコミュニケーション能力のアップなど、良い方向での学校統合を考えたいと思いました。

令和5年度文教民生委員会視察報告書

網走市議会文教民生委員会
委員 古 都 宣 裕

寝屋川市 視察

いじめゼロに向けたアプローチ

教育的アプローチ

学校現場 教育委員会による対応

主に人間関係の再構築 時間的には長くかかる

比較的軽度な場合 教職員による指導

行政的アプローチ

即刻停止 被害者 加害者の話を聞いて客観的に対応する

是正勧告 転校 など 物理的に止める場合もある

※ あくまで勧告で加害者が応じない場合 被害者に転校を促す場合あり
被害児童 加害児童 といった区分になるような場合

法律的アプローチ

弁護士などで民事訴訟 刑事訴訟になった場合

訴訟費用の30万円まで補助することとなっている

上記での解決のみでは困難で賠償などの責任問題が出る場合

行政アプローチの意義

本来教育アプローチのみで追われるのが理想だが現実的に難しい場合が多々ある。

そんな時に行政の危機管理部監察課として対応にあたる（基本2名体制）
保護者ではなくあくまで当事者（児童）の話を聞き、どの様な解決を望んでいるかの方向を知りその為のアプローチを図る。

寝屋川市が大きく取り組んでいるポイント

情報収集

毎月一回 児童にプリントを配っている（切り取って記入しポスト投函できるもの）

内容は時期により微妙に変えているとの事

フリーダイヤル メール 通報アプリ LINE 直接 など多方面から通報できるようにしている。

条例による市長の権限が明示されている

児童の見守り いじめ防止の環境整備 訓告・別室指導などの懲戒

出席停止 学級替え 転校の相談及び支援

※ 実際に出席停止などの実績は無かった。出席停止自体の運用ハードルが高いため、明示してあっても実際の運用は出来ないように思う。

子供たちをいじめから守るための条例

いじめ被害者支援事業補助金交付要綱が整備されている。

網走市へのフィードバック

低予算で取り組める部分としては、毎月の記入返信できるチラシ配布などの対応は安価に取り組むことができる部分であるように思う。また、通報アプリは当市でも導入予定であることから情報のはす野を広げるためには、色々な方面からアプローチしやすい環境整備をしていく事は、昨今の全国的な情勢を見ても急務であるように考える、

課題としては通報先になる教育委員会自体が、保護者児童からの信頼を得られているとはいいがたい状況のなかで効果を考えたときに微妙になってしまう。

よって現在の体制ではなく、いじめの把握や相談・解決の専門部署を立ち上げる必要性を感じる。学校退職者など現場にいた方が携わる方法もあるが、多角的視点で行わなくてはならない。また、街の規模が小さいため守秘義務などを考えるとなかなか難しい課題ではあるように思う、技術の進歩により対面でなくても大丈夫な場合や匿名でやる場合などはオンラインという方法も一つのやり方としては検討しなくてはならないが、現場とのやり取りの中ではどうしても市内での対応も必要不可欠に思う。オホーツク圏で広域的にスクールソーシャルワーカーを育成または雇うなど早急な対応が求められているように感じる。

財源

児童虐待・DV対策等総合支援事業補助金（児童虐待防止対策等総合支援事業費補助金）

新子育て支援交付金

吹田市

いじめ防止の取り組みについて

重大事案があったことから第三者委員会から受けた提言に基づいて
早期発見 早期対応 未然防止に向けた体制の強化

いじめ予防研修（教員向け）の研修を行っている。

初動の発見に重きを置いている。

研修センターを市で所有 教員のいじめ理解と対処スキルの向上をしている

※ 都市なので教員は吹田市内のみの転勤になる。

小学校 36校 約2万人 中学校 18校 約1万人

スクールカウンセラー（学校の心理士 心のケア担当）

スクールソーシャルワーカー（臨床心理士 社会福祉士を持って総合的に
解決にあたる人）

スクールロイヤー（弁護士 違法行為などの相談）

いじめ問題を児童に考えさせるワークブックがある

※ 子供の発達化学研究所 発行 著作権上市は譲渡権限が無いので現物
は貰えず

低学年向～中学生 まで 全4種 年間2時間

どういうものがいじめなのか その時どうしたらよいのか

傍観者といわれる 当事者間以外の生徒の考えや行動を促すようにする
取り組み

学校にいじめの予防リーダーという教員を配置

※ 現在いる中で講習を受けて各学校で中心となる教員を1名決めている
予防リーダーは講習を受けるが、過去では子供の発達化学研究所の主任研
究員である和久田氏による講習であったが、現在は講習を受けた研修セン
ター職員が講習を行っている

※ 90分×10回 学年を超えて指導が出来やすく全市的取組の為移動後も
同じ考え

スクールソーシャルワーカーは寝屋川市同様に会計年度任用職員となっ
ている（7名）

その点を考慮しオホーツクの地域性を考えると、広域で複数名いるのが望
ましい。

今後の課題としてどう続けていくか・形骸化されてマンネリ化していく事を危惧していた。

網走へのフィードバック

いじめ検討会議 ・ 虐待防止専門部会 が毎月開かれており課題が図られる

各学校がレベル分けをして報告があげられる 1～5レベル

さらに 19 の事例でチャート分けしており 学校が事例を引用して報告書のレベルを分けて報告 学校教育委員会がすべて目を通してレベルの適合性なども目を通し、時にはレベルの修正をして検討会議に上げられている。

これは網走市でも直ぐに引用すべきでレベル・チャートの作成をしていくべき。

事例を引用したレベル分けもできるように、しっかりと対応する事が大切。

研修センターで学校教員のいじめ発見・対応するアンテナ感度が上がっていることが大切

教員のレベルによって、対応の差異を極力なくす意識統一も大切である。

手間ではあるが、小さなことでも今後大きくなりうる可能性があることも考慮し、しっかりと報告をしていくような気運の醸成が必要となっている。

吹田市においても、学校によって報告件数に大きなばらつきがあり未だに1件しか上げられずに小さな解決したものなどは未報告(悪い言い方をしたら握りつぶす)となっている所も存在するとの事。

※ 主観的考察をするとベテラン教員に多いように思う。現在までの経験から必要性を述べられていても勝手に報告必要なしと判断する、変化を受け入れないなど。本視察の説明委員は比較的若い人が多かった為、50代以上の方は余計に若い奴の指導なんかと受け入れ難い方もいると思う。

寝屋川市の報告と同様に、網走の昨今では保護者児童から信頼され体制づくりから始めることが大切に思うが、ちょっとした体制の中でこうした取り組みは大切に思う。

ビックデータ化とまではいかななくても、近年の北海道におけるいじめ報告状況を見るとどのようなレベルが多いのかなどを見るためにも北海道や、出来たら全国的に統一したレベル分け、事例チャートがあるのが望ましいが、まずは低予算の中で簡単にマネ出来る部分であるため網走市とし

て取組む必要がある。学校からの報告による差異や、自己判断による重大事態だろうという報告ではなく、しっかりとした指針を作成することにより学校側の報告時のどの程度かなど考慮の負担や教育委員会自体の負担軽減に確実につながる。

淡路市 検診率アップ大作戦 検診率アップの取り組み

淡路市の検診率が元来高いというものがあつた。

平成 30 年 37.7 パーセント

令和 4 年 43.2 パーセント

検診の予算 特定健診 400 万円
がん検診 250 万円

※ ナッジ理論 チョットしたきっかけを与えて結果を誘導する理論
ナッジ理論 ・ AI を使い 放っておいても受診する人ではなく少しの
情報を与えると受診しうる人に対して行政側からアプローチする事業で
ある。

健康保険のデータで7タイプに分ける

その中でちょっとした切っ掛けを与えれば受診しうる人をAIがピック
アップ

※ データで積極的に検診を受ける人はここでピックアップされなくなる

圧着式の手紙で送る内容を変えている

例1 乳がん 2,000 円 子宮頸がん 1,500 円 特別な準備は必要あり
ません

例2 かかる費用 1,500 円 かかる時間 約1分

例3 まずは気軽にお電話ください。検診受信のためのご相談や疑問にお
答えします+電話番号記載

例4 特定健診で受ければ最大約 12,700 円の検診が0円に

例5 検診を受けている方の年間医療費は約 37,000 円も安いんです+下
記に検診内容

例6 特定健診には必ず医師と相談する時間があります+下記に検診内容

例7 特定健診で9割以上の方に改善が必要な検査値が見つかりました。

多角的に検診率アップに取り組んでおり、今回の視察事業だけでの検診
率ではないとのこと

直接の電話連絡やLINEの活用、電話が不記載の場合は訪問などによ
り献身的な活動により高い検診率が維持されているとのこと。

※ 電話でもう電話しないでほしいなどの要望があつたりした方はリスト
からその後外すなどの対応をするなどもしている。

網走へのフィードバック

ナッジ理論やA I のノウハウは外部委託によっており、市役所においてはデータやノウハウなど何も持っていなかったのが少し残念であった。しかしながら、そこに関わる予算は想像よりもかなり低額であったため（500 万円以下）、検診率アップのみならず他の事業などでも応用が可能であるので、様々な分野で考慮する必要があると思う。

元来の検診率自体が網走市よりかなり高い水準であるように思う。

網走 25%くらい 淡路市 37%（取組前時点）

そこから考えると、最初の放っておいても受診する人の数が違うため必然的にハガキの送付や連絡・訪問などのアクションをしなくてはならない人数が増えてしまうように思う。

網走市は、ナッジ理論からくる文章などの検診によるメリット自体をいかにして周知していくかという点でも考えていき、平均的な検診率を上げていかななくてはならない。

また、業者による委託料が安く済んでいることから、積極的な活用をしていく事ができるように思う。委託で特定健診 400 万円＋がん検診 250 万円

ハガキの送付込み

特定健診 5,900 件 1回

乳がん検診 1,967 名 2回 子宮頸がん検診 3,478 名 2回

検診率が上がることにより、早期発見・早期治療につながり保険料の抑制などの効果がある事が実証されているので、費用対効果を考えたときに取り組んでみることは大切に思う。

淡路市でも懸念されていたが、同じことを毎年繰り返しても形骸化しナッジ理論としての効果が減少するように考えられる。気運の醸成をする意味でも毎年でなくても取り組んでみてもよいのではないかと思う。

予算としては

特定健診 = 国民健康保険特別会計 保険者努力支援分 400 万円

がん検診 = 一般財源 250 万円

岡山県

山南学園（小中一貫校への取り組み）

地区連合会長が将来の人口減少を見込んで中学校への地区小学校をまとめる様に要望

反対意見もあったが、連合町内会長が、自分が責任をもって意見をまとめるという進めていったから。

決定後、小学校分の教室などを中学行へ増築した（2か年かけて）

1年かけて地元の合意をとりつけ

協議会を立ち上げて 学校準備チームを作る

総務 管理 教務 指導 施設 の5チーム

各小学校から活かせる物は移動してきている

※ 別紙 スケジュールマップを参照

合併推進債 を使っている

合併後 という分け方

小学校 1～4年生 初等部 5～6年生 中等部

中学校 7～9年生 高等部

6年生から7年生になる際は、卒業・入学式などは行っていない。

キーワードとして国際社会に対応するためのグローバルな人材を育てるため英語力に力を入れている。

同時にふるさと教育にも力を入れており、自分の育っている街の歴史などを理解することにより郷土愛につなげ、将来的に自分の街への還元する気持ちの教育を行っている。

※ 実際に成績があがるなどの効果が上がっており地元愛の醸成にもつながっている。まだ始まったばかりなので今後の成長により、回帰する大人の率なども参考になりうる。

網走へのフィードバック

網走の今後も統廃合があると思われる。

網走の場合小学校2校と中学校になると予想される。

呼人地区に小中学校があるが、山南学園の様な形態が理想的であるように思う

山南地区モデルとして各地区で中学を中心に考えると全6校に集約になると仮定していく場合は、スクールバスが問題になってくるように思う。

将来的な少子化を考えたときに効率的な学校運営も考慮しなくてはならない。

また、山南地区は給食委託であったが統合し山南学園になったときに自校給食に切り替えて戻している。昨今の状況で委託している所で給食が止まるなどの不具合が出ていることから網走市では親子式の給食サービスを維持することが望ましいと考える。

中学校教員（7-9年生）が小学校（5-6年生）を教えるなど専任教科制で行っており教えることで、中学部分に入っても生徒との面識がある為指導などがスムーズであるとあり、参考になる部分であるように思う。

学校の先生がある程度相互的に教えられるようにしている事で、コロナやインフルなどでの不在時の対応をカバーしやすい環境となっていて、そうした面でも参考になったが、帰宅後レポート作成時に小中教員免許の面で教えるのは大丈夫だろうかという疑問が残ってしまったのが反省点。

統合することにより授業時間の小中のずれがあるが1日5回終了時間を被るように時間のずれを調整しておりその間だけベルを鳴らす。

本年度から始動した兄弟学年の設定の試みはとても良い取り組みに思う。

1年生と6年生から始まり2年生-7年生、3年生-8年生、4年生-9年生と学校が同じだからこそ継続して面倒を見てくれるお兄ちゃん的な学年が存在するのは精神的な成長も促せてよいと思う。

空いてしまう5年生は来年度来る幼・保育園の年長さんと交流を持たせることで入学からの連携をスムーズにするという話だった。兄弟がいる家庭が少なくなっている昨今では、小さい子と接することで情操教育になり、今後の参考になると思う。